

かぐや姫と七夕



早いもので来週はもう7月です。

♪ささのはさーらさら のきばにゆれる
おーほしさま きーらきら…♪

これはみなさんよくご存じの「たなばたさま」の歌詞です。この詞にもある「笹の葉」つまり竹ですが、七夕と竹とはどんなつながりがある

のかみなさんは考えたことがありますか。

竹は古来より悪いものをさえぎるものという言い伝えがあります。家を新築するとき、じちんさい地鎮祭に竹を四方に立てるのはその中に悪いものが入らないようにというおまじないです。七福神のえびす様が竹の枝を手にしているのもそのいわれです。また、江戸時代には竹で編んだ籠で罪人を閉じこめました。そしてその刑場は竹の柵で囲われました。これは悪いものが外へ出られないように閉じこめるという意味があったといわれています。また、竹は成長が非常に速い（たけのこは十日間（旬）で竹になることからたけのこ筍と書きます）ので、月（天）への架け橋であるともいわれてきました。このことから、七夕に竹が使われることになったと思われるかもしれません。かぐや姫が竹から生まれたのも単なる偶然ではないような気がします。大切な子宝を竹が守り、最後には月へ導く架け橋となるわけです。…と強引にこじつけてかぐや姫と七夕の共通点を見いだしました。

ところでかぐや姫はお別れに、おじいさんとおばあさんに贈り物をしました。何を贈ったか、みなさんをご存じですか。

かぐや姫は育ててくれたお礼にと二人に「不死の薬」を置いていきます。しかし、おじいさんは姫のいない世の中でいつまでも生きていくことを無意味に感じ、この薬をするが駿河（今の静岡県）の山に捨ててしまいます。それからこの山が「不死の山…ふじの山…富士の山」となったのです。

おそまつでした。チャンチャン！